いわての学び希望基金

［活用状況のご報告］

新渡戸稲造の思いを胸に設立した基金は皆様の温かい心によって子どもたちの支えに。

岩手の偉人の一人に「武士道」を著した新渡戸稲造がいます。
新渡戸稲造は、今から百年以上前、札幌農学校教授時代に、家庭の事情で学校に行けなかった子らを集めた
無料の夜学校「遠友（えんゆう）夜学校」を設立しました。
その設立は、子どもたちに、「学ぶ楽しさを教え、将来、社会に役立つ人物になってほしい」
との思いによるものと言われています。
「いわての学び希望基金」は、新渡戸稲造の精神を受け継ぎ、
子どもたちが社会に出るまでに必要な「暮らし」と「学び」に役立てられ、
皆様からのご支援が、子どもたちの希望と未来を創っています。

目次

子どもたちをめぐる復興の状況	3~4
座談会	5~8
感謝の気持ち	9~10
エール	11~12
「いわての学び希望基金」活用状況	13~14

トビラ写真：三陸鉄道宮古駅における通学風景

はじめに

令和2年11月
岩手県知事
達増拓也

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波により、岩手県では、災害関連死を含め 5,143 人の方が亡くなり、未だ 1,111 人の方々が行方不明となっているなど、沿岸地域を中心に甚大な被害が発生しました。

また、東日本大震災津波により 583 人もの子どもたちが親を亡くしたほか、親が仕事を失うなど、子どもたちを取り巻く環境も一変し、多くの子どもたちが、経済的な理由により就学を断念することが懸念されていました。このことから、県においては、こうした子どもたちに対し、自らの希望する進路を選択し、社会人として独り立ちするまで、継続的な支援を行うことを目的に、平成23年6月に「いわての学び希望基金」を創設しました。

「いわての学び希望基金」には、これまで、国内外の多くの皆様から 100 億円を超える御寄附をいただいており、被災地の子どもたちへの奨学金給付や教科書等の購入費、部活動遠征費の補助、通学費用の負担軽減など、子どもたちが社会に出るまでに必要な「暮らし」と「学び」の支援を行ってまいりました。これもひとえに温かい御支援をくださった皆様のおかげであり、心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波からの復興の歩みは、これまでの取組によって着実に進んでいる一方で、被災された方々や多様化する被災児童等のこころのケア、新たなコミュニティの形成、まちづくり後の事業者への支援など、被災地における中長期的に取り組むべき課題もあり、一人ひとりに寄り添った、より丁寧な支援が必要となっています。

県では、昨年4月にスタートした「いわて県民計画（2019～2028）」において、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標とし、今後も復興を県の最重要課題と位置付けながら、「誰一人として取り残さない」という理念のもと、三陸のより良い復興の実現に向けた取組を進めてまいりますので、一層の御支援をお願い申し上げます。

結びに、本小冊子により、支援をいただいた子どもたちから全国の皆様への感謝をお伝えするとともに、被災地の子どもたちが東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を発信することで、多くの皆様に岩手の復興の今を御理解いただくことを願い、発刊のことばといたします。

子どもたちをめぐる復興の状況

郷土を愛し、復興・発展を支える人材を育てています。

東日本大震災津波伝承館外観

■東日本大震災津波伝承館 いわてTSUNAMIメモリアル 復興教育での活用

東日本大震災津波伝承館は、「東日本大震災津波の事実と教訓」を全世界の人々と未来へ伝承をする場として令和元年9月22日に開館しました。

開館以来、岩手県内外の児童生徒が数多く来館し、解説員の解説を聞きながら学習しています。津波で被災した消防車などの被災物の見学、三陸地方を襲った津波の歴史や命を守る行動、「つなみてんでんこ」についてなど、東日本大震災津波を経験していない児童生徒にも一から学べるよう展示しています。

また、中学・高校生用に、「震災津波伝承ノート」を用意しています。見学前の事前学習や見学時に学んだことを記入し、考えや思いをまとめる構成になっています。見学後の自分の生活や学校での復興教育の学習に生かされるよう作成しています。

■公立学校施設の復旧状況（沿岸地域）

被災学校数 86校　［令和元年9月30日現在］

工事完了 86校 100%

東日本大震災津波により、岩手県沿岸地域では、86校の学校で施設が被害を受け、86校すべてが復旧しました。

高台に再建された陸前高田市立気仙小学校（陸前高田市提供）

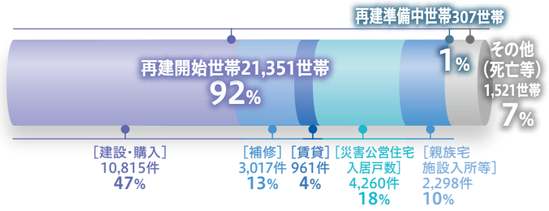
■公立文化施設・体育施設の復旧状況

整備予定施設数 67施設　［令和2年9月30日現在］

工事完了 63施設 94%　整備中4施設 6%

岩手県沿岸地域では、被害を受けた文化会館等の文化施設11施設及び体育館や野球場等の体育施設58施設のうち体育施設2施設を除く67施設を復旧することとしており、そのうち63施設（文化施設11、体育施設52）が復旧しました。

■被災者の住まいの再建の状況（試算）［令和2年9月30日現在］



※住宅の再建を開始した者に支給される被災者生活再建支援金（加算支援金）の支給件数14,793件に、災害公営住宅入居戸数4,260戸、親族宅・施設入所戸数等2,298戸を加えた数値を、住まいの再建が開始された数とみなして試算したもの。

■いわての復興教育

震災の教訓から得た3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】

岩手県では、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、県内全ての公立小・中学校及び県立高等学校・特別支援学校で、「いわての復興教育」プログラムに基づきながら、震災津波の教訓から得た３つの教育的価値を育てています。

復興教育の授業風景

震災の教訓から得た3つの教育的価値

- ◆【いきる】　震災津波の経験を踏まえた**生命の大切さ・心のあり方・心身の健康**
- ◆【かかわる】　震災津波の経験を踏まえた**人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画**
- ◆【そなえる】　震災津波の経験を踏まえた**自然災害の理解・防災や安全**

復興教育副読本

■子どものこころのケアセンター設置

震災により大きなストレスを抱えながら生活する子どもたちの心のケアに対応するため、平成23年6月に「子どものこころのケアセンター」を宮古地区に開設、気仙地区、釜石地区にも同センターを順次開設し、子どもや家族、保育士や教員からの相談を受けてきました。

また、平成25年5月には、中長期的に継続した支援を行う拠点として、岩手医科大学（矢巾町）内に「いわてこどもケアセンター」を開設し、児童精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士など、多職種チームにより専門的なケアを行っています。

多職種によるこどもケアチーム

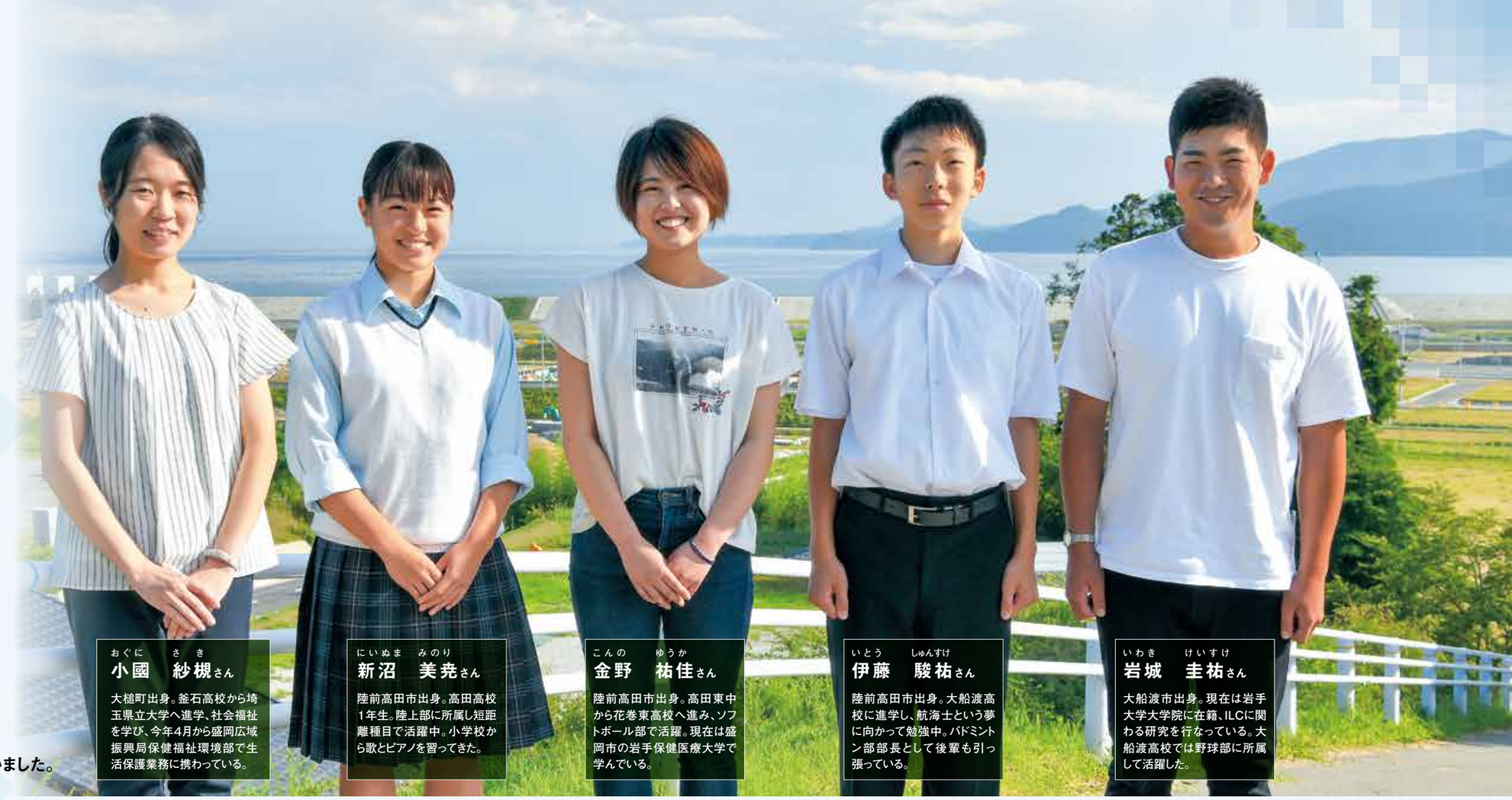
座談会

「いわての学び希望基金」の支援を受けて

「これまで」と「これから」支援に感謝

東日本大震災津波から9年、沿岸は復興が進み新しい街並みで新しい日常がはじまっています。そんな沿岸の町で、辛い体験を乗り越えて夢や希望に向かって邁進している若者たちを支え、未来へとつなげる役割を果たしている「いわての学び希望基金」。支援というたくさんの優しさに支えられてきた5人の若者にこれまでのこと、頑張っていること、そして将来の夢についてじっくりとお話をしてもらいました。

※座談会は、令和元年8月に開催したものです。



小國（おぐに）　紗槻（さき）さん
大槌町出身。釜石高校から埼玉県立大学へ進学、社会福祉を学び、今年4月から盛岡広域振興局保健福祉環境部で生活保護業務に携わっている。

新沼（にいぬま）　美尭（みのり）さん
陸前高田市出身。高田高校1年生。陸上部に所属し短距離種目で活躍中。小学校から歌とピアノを習ってきた。

金野（こんの）　祐佳（ゆうか）さん
陸前高田市出身。高田東中から花巻東高校へ進み、ソフトボール部で活躍。現在は盛岡市の岩手保健医療大学で学んでいる。

伊藤（いとう）　駿祐（しゅんすけ）さん
陸前高田市出身。大船渡高校に進学し、航海士という夢に向かって勉強中。バドミントン部部長として後輩も引っ張っている。

岩城（いわき）　圭祐（けいすけ）さん
大船渡市出身。現在は岩手大学大学院に在籍、ILCに関わる研究を行なっている。大船渡高校では野球部に所属して活躍した。

※学校名・学年等は、令和元年9月現在のものです。

5人5様の夢のかたち 頑張っていることは

二宮：最初はこれまでのこと、そしていま職場や学校生活の中で頑張っていることを聞かせてください。

小國：今年4月に社会人となり、盛岡広域振興局の保健福祉環境部に配属され、生活保護業務を担当しています。大学でも福祉の勉強をしてきたんですが、実際の仕事は難しくて、日々戸惑うことがとても多いです。

二宮：最初から今のお仕事のような福祉分野に興味があったんですか。

小國：いいえ。保育士をしている母の影響もあり、幼稚園教諭や保育士になりたいと考えていました。でも、大勢を相手にするというよりは、特別な支援を必要としている子どもの力になれるような仕事に携わりたいと思うようになり、福祉系の大学に進学しました。大学では実習やボランティアを経験する中で子どものみならず福祉全般に興味が湧いてきたんです。県職員なら業務を通して福祉の仕事を幅広く学ぶことができると考えました。

岩城：私は岩手大学大学院でILC関連の研究をしています。最初は電気の勉強をしていたんですが、岩手県へのILC誘致が展開され、自分自身も研究を通して貢献できるかもしれないと思い決めました。難しい分野ではありますが、研究って面白いなとも感じています。また野球が子どもの頃から好きで、今も社会人チームに所属しています。秋には来年の全国大会出場がかかった県大会が控え、練習にも熱が入っています。

二宮：金野さんは岩手保健医療大学に在学中ですね。進学を決めたきっかけは。

金野：私は陸前高田市出身で、高校は花巻東高等学校へ進学しソフトボールに取り組んでいたんです。でも震災後、病気で10日間ぐらい入院をした時にお世話になった看護師さんの仕事を見て、この道に進みたいと思いました。高校生活は部活中心だったので勉強も実習も大変ですけど、将来は助産師を目指しています。

伊藤：頑張っていることは、まず学校生活。高校は理系コースなんですが物理や数学がちょっと苦手で…。バドミントン部の部長でもあるので、友達と切磋琢磨しながら勉強と部活との両立を目指しているところです。また自分は陸前高田市からバスで大船渡高校に通っているので、往復3時間の通学は単語帳で勉強するなど、時間をうまく使うよう工夫しています。学校外では市が実施している防災マイスター養成講座に6月から通っています。震災からは時間が経ちましたが、改めて防災の大切さを確認できる機会になっています。

二宮：部活をやって勉強もして防災マイスターまで目指しているなんてすごいですね。色々なことへチャレンジする原動力は何ですか。

伊藤：支えてくれる家族ですし、こうやって自分で考え行動する力は、将来きっと重要になると思います。

新沼：私は勉強と陸上部の活動、あと小学校の頃から習っているピアノと歌を頑張っています。実は学期末試験と陸上の大会日程が重なってしまって大変なんですけど、クラスメイトはもちろん先生もとても楽しい人ばかりで授業中も和気あいあいとした雰囲気。おかげで、勉強することがすごく楽しいと感じています。

小國：私が高校生の頃は勉強と部活をこなすのに精一杯でした。色々なことを考えながら高校生活を送っているふたりは、本当にすごいなあ。

みんなの頑張りが わたし自身のパワーに

二宮：みなさん、楽しみながら日々を送っているようで聞いていてとてもうれしいです。それでは、次は将来のこと、これからの希望や夢について聞かせてください。

小國：まずは担当している業務をしっかりと実行できるようにしたい。将来的には沿岸に赴任することもあると思うので、その時は自分の役割を意識しながら、被災地の人や復興に関わる仕事もできればと思っています。

二宮：今の経験と業務の中で小國さんが考える自分の役割って何ですか。

小國：受け持っている世帯への責任でしょうか。今は上司のサポートがあるけど、本来、その世帯の担当は私一人だけなので。今はまだ失敗ばかりですが、それぞれの家庭の事情を把握して、安心して相談してもらえるケースワーカーになりたいです。職場には事務仕事が早いとか記録が上手だとか、電話の対応がうまいといった業務上の手本になる先輩がたくさんいますから、いいところを吸収していきたいと思います。

岩城：実は高校ぐらいまで具体的な夢はなかったんですが、震災で電気の重要性を実感し、大学で学ぼうと決意。就職先も電気関係に決まりました。目標はエンジニアとして一人前になることですが、電力を通じて地域に貢献したいという気持ちがずっとあります。できる限りお客様の声に耳を傾け、暮らしに寄り添いながら仕事をしていけたらと思います。

二宮：日々の中で声を拾っていくことはすごく大切だと思うんですけど、そういったときに心がけていることはありますか。

岩城：相手が述べている時は否定せず、意見を理解した上でのディスカッションを意識しています。自分の考えを押し通すより、お互いがいい方向にいけばいいと思っているので、じっくり話すようにしています。

二宮：そういう気持ちで仕事に取り組めば、素晴らしいエンジニアになるでしょうね。金野さんは、助産師を目指すきっかけはあったんですか。

金野：最初は看護師を目指していたんですが、以前から駅とか電車の中とかで妊婦さんを見かけるたび、助けてあげたいという気持ちがありました。震災で母を亡くしたこともあるのかもしれませんが、校外実習でお母さんや赤ちゃんをケアする機会もあり、気持ちが固まりました。もちろん看護師も助産師も人の命を預かる難しい仕事だし、コミュニケーション力も問われます。患者さんのことを考えながら仕事をできる医療のプロになりたいと思っています。

二宮：先輩はみんな具体的な目標に向かっていますね。高校生のふたりはどんな夢があるんでしょうか。

伊藤：夢は航海士になることです。祖父が船乗りで世界を回っていて、話を聞くうちにこんな仕事もいいなと思ったんです。そのためにはまずは海洋系の大学に進学し、資格を取得しないと。将来は貨物船の航海士になって、色々な世界の風景を見られたらいいなと思っています。

新沼：小学校から歌とピアノを習ってきたので音楽の方に進みたいという夢がひとつ。ふたつ目は看護師とか助産師など医療系の仕事で、どちらがいいか悩んでいます。でも音楽の仕事って狭き門じゃないですか。ずっと考えてはいるんですけど、医療系の道に進むような気がしています。

二宮：進路としては選ばなきゃならないけど、音楽も続けていけば、何か活かせるものもあると思いますよ。

金野：実は私もピアノを習っていて弾き語りもしていました。それで高校の時に進路に迷った時期もありました。自分の経験でいうと、まだ音楽の夢を諦めなくてもいいんじゃないかな…。でもみんな、自分の夢や将来について真剣に考えてますね。私、大学生になって時間の余裕ができて、やるべきことを後回しにしていた部分もあったので、今あらためて頑張ろうと思いました。

いただいた支援を 次に届ける「恩送り」

二宮：最後になりましたが、「いわての学び希望基金」に温かな支援をいただいている全国のみなさんへ、感謝のメッセージをお願いします。

小國：私はみなさんからの支援のおかげで大学に進学できました。長く支援を受けているとそれを当たり前のように思ってしまっていた部分もありましたが、今あらためて考えてみると、そうではなくとても幸せなことだと感謝しています。社会人として少しずつでも成長していけるよう頑張っていきます。

岩城：自分が大学、大学院と進学でき、やりたかった研究もできたのは支援があったから。これまでは支援される立場でしたが、社会人になるからには支援する側に回り、これまでのご恩を返していければと思います。

金野：私もです。支援がなくてはいまの大学に入ることができなかったかもしれないから。この感謝の気持ちを伝えるには、勉強を頑張っていくことが何より大事だと思っています。

伊藤：多くのご支援をいただいたおかげで今の学校生活があるし、学習塾の費用とか参考書とかそういうものも色々買えているんだと思います。何年後になるかはわからないけど、自分がこれまで支えられてきたように、いつかは困っている人を支えてあげられる人になりたいです。

新沼：震災当時は小学1年生で、以来ずっとなんらかの形でたくさんの人からたくさんのものを支援してもらってきました。今も各地で様々な災害が起こっている中で、今度は自分が「恩送り」の形で被災地を支援する立場になりたいなって思います。

二宮：「恩送り」という言葉が出ましたが、これまでいただいた支援を次に送るという、そういう気持ちがすごく嬉しいし心強く感じました。今日集まったみなさんが、それぞれの地域でそれぞれ願う生き方をしてくれるのが支援へ応えていくことになるのだと思います。これからも色々なことがあると思うけど、めげずにチャレンジしてください。今日は本当にありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

司会／二宮雄岳さん
釜石リージョナルコーディネーターとして釜石市で活動。「まちづくりの調整役」として、様々な人や組織をつなぎ復興まちづくりを推進している。

感謝の気持ち

「いわての学び希望基金」の
支援を受けた子どもたちが、感謝の気持ちを込め、
皆様への御礼とともに、自分の「今」を伝えます。

大槌での学びを
岩手県の子どもたちへ

滝沢市立滝沢小学校教師
岩間（いわま）　仁（じん）さん

昨年の春に大学を卒業し、念願の小学校教師として滝沢市立滝沢小学校に赴任した岩間仁さん。現在は5年2組の担任教諭として忙しい日々を送っている。クラスの児童数は29人。その一人ひとりの様子に気を配りながら、各教科の学習指導に加え生活指導を行うなど、担任のやるべきことは多い。特に小学5年生といえば、いろいろな興味も芽生えてくる多感な時期。

「子どもとして接する場面と、大人として接する場面が出てくる。昨年は3年生の担任でしたが、物事の伝え方が違うんです。頭ごなしに指導するのではなく、子どもたちが自己肯定感を持つことができるよう、意識して褒めるようにしています」

と、児童の個性や感情を大切にした指導を心がけている。

教師になりたいと思うようになったのは、郷里の大槌町で通った赤浜小学校時代。全校46人の小規模校で、家族のような強いつながりの中で過ごした。「その時の担任の先生が本当に素晴らしい人。こんな先生になりたいと思いました」。小学校卒業後も高校では部活の顧問から信頼されるうれしさを覚え、大学では多くの人と交流するなか自信を身につけていった。「これまで恩師から学んできたことを、いま子どもたちに伝えています」と話す。

初任地での一年目は、指導役の先生にたくさんのアドバイスをもらいながらやり方を模索した。勉強の日々はいまも変わらないが、自分で考えて構成した授業によって子どもたちが変化していく瞬間があり、仕事の醍醐味を感じている。「より良い変化が生まれる、そういう場面を増やしていければ」と今日も教壇に立つ。

郷里の大槌町赤浜はかさ上げ工事で一変し、母ももういない。しかし「大槌で学んだことを岩手県の子どもたちに伝えていくため、いろいろな場所で働きたい」と、岩間さんは夢を描く。後押しするのは、東日本大震災津波以降受けてきた温かな支援だ。

「基金があったからこそ、大学に通って教師にもなれた。私たちが感じてきたみなさんの優しさや温かな気持ちを、いま、目の前の子どもたちに還元していく。それが自分なりの恩返しです」。

明るい笑顔と教師への情熱を胸に、伝えることの大切さを、次の時代の子どもたちへと渡している岩間さんである。

東北大学大学院１年
吉田（よしだ）　一貴（かずき）さん

私は東北大学大学院で地学を専攻しています。そこでは主に現在の地形から読み取ることができる過去の地震やそれ以外の要因によって発生した地殻変動と、そこから推測できる古地震の履歴について研究を行っています。

震災前から災害、特に地震の予測に対し関心を持っていましたが実際に被災しその重要性を身を持って知ったことによって、より強い関心を寄せるようになりました。大学に入ってからは地形学の観点から地震に関して様々なことを勉強させていただきましたが、勉強すればするほど地震の予測がどれ程難しいことなのかを実感します。

非常に難しい研究ではありますが、とてもやりがいのあることでもあります。私が勉学や研究を続けられるのもご支援してくださる皆さんのおかげです。皆さんの支援がなければ今のような充実した日々は送れませんでした。今後、研究などを通して得た知識を用いて何かしらの形で防災に貢献していければと考えています。ご支援本当にありがとうございます。

岩手県立大学総合政策学部3年
金野（こんの）　将治（まさはる）さん

私は岩手県立大学総合政策学部に在籍し、座学だけでなく実習なども通じて広く「環境」について学んでいます。また昨年からスペイン語の学習にも力を入れていて、3月にはスペインに2週間ほど語学研修に行ってきました。新型コロナのパンデミックがいつ収束し、いつになれば安心して海外へ行けるようになるかはまだ分かりませんが、将来的には1年か2年ほど長期で語学留学をしたいと思っています。卒業後は、大学で学んだ環境についての知識や語学留学などの国際経験を、自分なりの関わり方で地元に還元していきたいと思っています。

小学５年生の時に震災で母を亡くし、とても悲しく不安な日々を過ごしていましたが、現在こうして大学に通えていることや将来やりたい事を見つけられているのも、「いわての学び希望基金」をはじめ、国内・海外からの多大な支援やこれまでの多くの仲間との出会いがあったおかげです。支援してくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず、1日1日を大切に生活していきます。本当にありがとうございました。

岩手県立大船渡高等学校２年
地舘（ちだて）　凪海（ななみ）さん

私は今、看護系の仕事をすることを目標に勉強に励んでいます。

母は看護師で東日本大震災の時もグループホームに勤めていました。私が母と避難所で合流した時、母は塩水を被った利用者の方を助けようと必死に働いていました。私はそんな母のかっこいい姿を見て医療に携わる仕事をしたいと感じたのがきっかけです。

この震災で私は父を亡くしました。とても悲しかったし、母が一人で祖母と兄と私を支えられるよう懸命に働いている姿を見て心が痛かったです。

ですが、今は、安定した生活を送ることができています。こうした今の私があるのは、「いわての学び希望基金」をはじめ、叔母や叔父、周りの方々や遠いところからの温かい支えがあってこそだと感じます。これからも、常に感謝の気持ちを忘れずに頑張り、今までお世話になった全ての方々に恩返しできるよう夢を実現させたいと思います。本当にありがとうございました。

岩手県立釜石高等学校１年
古舘（ふるだて）　千冬（ちふゆ）さん

私は今年の４月に念願の高校へ進学することができました。高校での生活は想像していた以上に大変なことが多いですが、授業や部活動、行事など中学校よりも楽しいと思うことがたくさんあり、充実した生活を送っています。部活動ではバドミントン部に所属し、先輩方に追いつけるよう練習を頑張っています。

幼稚園の年長のときに私は被災しました。今ある当たり前が当たり前でないことを初めて知りました。また、寂しさや悲しみがとても大きかったですが、多くの方々からのご支援や支え、温かさにたくさん助けられてきました。ご支援の中でも、初めて会う人との交流では、ものの考え方や価値観が私自身変わったと思います。友達の存在も大きく、たくさん助けられてきました。

「いわての学び希望基金」や多くの方々からのご支援のおかげで今があります。支援して下さった方々への感謝の気持ちを忘れず、これからの学校生活を更に頑張っていきたいと思います。また、恩返しができるよう、たくさんのことに挑戦していきたいです。本当にありがとうございました。

ほかにもたくさんのメッセージが
県に寄せられています。
岩手県公式ホームページ上でご
覧ください。

いわての学び希望基金で支援を受けた子どもたちからのメッセージ
https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/ippan/koho/1006260/1006261.html

エール

**子どもたちの支えとなる
皆様からの善意の心。
ご支援いただいている方々の
いわての子どもたちへの想いをご紹介します。**

被災地の子どもたちへ

**桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金
実行委員長　安藤　忠雄**

photo by 関野欣次

みんな元気で頑張っていますか?

多くの犠牲者を出したあの東日本大震災から令和3年3月で10年を迎えます。あの時はまだ幼い子供だった人も、もう随分成長されていることと思います。

あの震災で皆さんは、はかり知れないほどの深い悲しみと厳しい試練を経験したと思います。でも、耐え難い辛苦を乗り越えたことで、きっと他の人々の苦しみを受け止め理解できる優しい心と、どんな苦労にも勇気を持って向かっていける強い心の持ち主になっていると信じています。皆さん一人一人が、復興への道を一歩一歩と進み続ける被災地と一緒に成長を続けてきたのだと思うと、非常に感慨深いものがあります。

桃・柿育英会は、「桃、栗３年、柿８年…」と、果樹の実が育つのを数えるように、震災で保護者を失った子どもたちの成長を、少なくとも 10 年は見守りたいという願いから、有志の方々とともに立ち上げたものです。発足以降、予想をはるかに上回る反響を呼び、たくさんの方々から支援の声を頂きました。どれだけ多くの人々が、被災地の子どもたちを支えたいと考えているかがよく解り、力強く感じました。こうした一人一人の思いをうまく紡いでいくことが出来れば、復興に向けての大きな力となる――そう実感したことを、昨日のことのように覚えています。

そして、10年の月日が流れました。桃・柿育英会は当初の予定通り、今年をもって一旦活動を終了します。しかし私たちは今後も、基金を支援して下さった方々とともに、引き続き皆さんの活躍を見守っていきたいと思います。

皆さんには、「自分は一人ではない」ということを常に意識しながら生きて欲しいと思います。皆さんの境遇に心を痛め、わずかでも力になりたいと協力して下さった方々の温かい思いを忘れないで下さい。そして、ぜひ自分たちの力で、この先の希望を見出して下さい。大きな自然の驚異と向き合わざるを得なかった過酷な体験を糧にして、創造力と自立心をもって、命あるものに対する深い愛情のある人間になって欲しいと思います。

日本の未来は、皆さんの元気と創造力にかかっています。苦しみや悲しみを乗り越え、再び笑顔を取り戻したかつての子どもたちが、学びを得て自立し立派な若者となって、これからの日本を支えるリーダーとなり世界で活躍していくことを心から願っています。

響け！復興の太鼓

響け！復興の太鼓実行委員会(盛岡市)

東日本大震災津波の発生からまもなく10年を迎えようとしていますが、私達が一番心配していることは、未来の社会を担い築く子ども達が、被災による経済的な理由で学びを断念し、夢の実現を諦めてしまうことです。二つ目は、風化という言葉が示すように、沿岸地域の方々と「共にある」という気持ちが、時の経過とともに私達の心から薄れていく危険性があることです。

そこで、子ども達の学習支援や進学支援を行っている「いわての学び希望基金」へ入場料を全額寄付してエールを送り応援をしたいという思いから、復興支援チャリティショー「響け！復興の太鼓」を開催することにしました。

また、出演者として沿岸地域の太鼓演奏団体や郷土芸能団体の皆さんを公会堂に招聘し、演奏や演舞等を通じて沿岸地域の方々との心の交流を行い、「共にある」ことを再確認してもらう機会としたいと思って開催しています。

太鼓の響きは、輝かしい未来へ向けて夢や目標を実現しようと頑張っている子ども達への心からの激励のエールです。また、東日本大震災のことを決して忘れないようにという私達への警鐘であり、「共にある」という共生へのメッセージでもあります。皆さんの心にも、一人でも多くの方へ願いのこもった太鼓の響きが届きますように！

ともに前へ

北日本ハイテクニカルクッキングカレッジ(盛岡市)

いわての学び希望基金の支援により、本校の卒業生や在校生の中で、東日本大震災で親御さんをなくし、悲しみのどん底の中でも夢をあきらめることなく、学業を続け、資格を取得し頑張る学生の姿を見てきました。

本校の学生以外にも同じ思いや境遇の学生がいる中で、私たちにできることを考え、震災の2年後の 2013 年から年1回、盛岡駅ビルで、学校で学んだ技術や知識を基に作ったお菓子や、パンをチャリティー販売し、収益を寄付しています。

基金を利用している皆さんが将来の夢に向かっている中、学生たちが身につけた「力」と支援への「想い」で募った収益は、みなさんの将来へのかけはしになることを祈っています。

現在、新型コロナウイルス感染症という新たな脅威が発生し、まだまだ支援を必要としている方がいらっしゃると思います。同じ岩手の仲間として、これからも応援いたします。ともに頑張っていきましょう。

全国から寄せられたメッセージ

「いわての学び希望基金」へのご支援の際、多く励ましの言葉や子どもたちへのメッセージを頂いています。

- 「震災を忘れない」「風化させない」と思いながら、微力ではございますがこれからも支援を続けて参りたいと思っております。
- 遠く離れていても、ふるさと岩手のために少しでもお役に立ちたいと思っています。
- 未来の大事な宝である子どもたちが、大きく、大きく羽ばたくために少しでも役に立てるように。
- 被災地の皆さんのことを忘れることなく、思いを同じにして応援している者たちが大勢いることを信じていただきたいと思います。
- 被害にあわれた方々を忘れないで「愛」と「勇気」を届けられたらと想っています。
- 東北の明日を担っていく子どもたちが頼もしく育っていきますように！
- 「がんばろう岩手」の誓いを胸に、被災されました方々に希望を見出していただきたく切に願います。
- これからも、希望をもって明るい未来を創っていくみなさんを応援しています。
- 子どもたちが、震災前に抱いていた夢をあきらめることなく進路選択を実現できるように。
- 未曾有の震災から9年が過ぎましたが、被災された方々の一日も早い復興を心から願い、少しでもできることを続けてまいりたいと思っております。
- 一歩一歩、未来に向かって歩みを進めて行っていただきたいと願っております。
- 東北復興は終わっていません。まだまだ応援したい！これからもずっと。

「いわての学び希望基金」活用状況

皆さまから寄せられたご支援は、子どもたちの「暮らし」と「学び」に役立てられています。

震災学習列車で学習する子どもたち

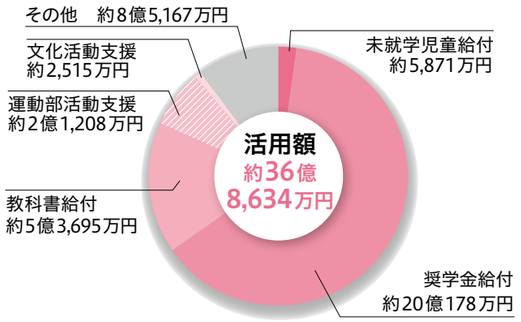
■ 寄附金の受付状況 ［令和2年9月30日現在］

件数 24,809件

総額 約102億3,818万円

日本、アイルランド、アメリカ、イギリス、イタリア、オーストラリア、カナダ、スイス、スペイン、セネガル、ドイツ、フランスなど世界各国からご支援を頂いています。

■ 令和元年度までの基金活用実績



■ 本県の津波震災孤児・遺児の状況

（発災当時18歳未満の方）

孤児（両親を失った子ども）　94人

遺児（父または母を失った子ども）　489人

孤児・遺児を対象とした奨学金について、平成30年4月からは、月額の給付額を増額するほか、大学院生に対象を拡大して給付しています。

【奨学金等給付対象と給付金額】

給付対象		給付金額
未就学児童		（H29年度で終了）
小学生		月額　3万円
中学生		月額　4万円
高校生		月額　5万円
大学生等（自宅）		月額　6万円
大学生等（自宅外）		月額　10万円
大学院生等（自宅）		月額　6万円
大学院生等（自宅外）		月額　10万円
一時金	小学校入学時	6万円
	小学校卒業時	15万円
	中学校卒業時	25万円
	高等学校卒業時（自宅）	30万円
	高等学校卒業時（自宅外）	60万円

［平成30年4月～］

■ 社会に巣立つまでの学費等の支援

東日本大震災津波により被災し、親を失った児童・生徒等に対し、奨学金等を給付し、「暮らし」と「学び」の支援を行っています。

【令和元年度までの奨学金等支給人数】　（単位：延べ人）

	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生・専門学校生等	大学院生	合計
平成23年度	85	190	137	149	66	0	627
平成24年度	73	172	130	150	75	0	600
平成25年度	59	152	117	149	101	0	578
平成26年度	44	129	107	140	121	0	541
平成27年度	29	114	102	130	133	0	508
平成28年度	19	91	102	115	123	0	450
平成29年度	5	86	84	104	134	0	413
平成30年度	1	75	71	101	110	7	365
令和元年度	0	61	52	102	104	8	327
合計	**315**	**1,070**	**902**	**1,140**	**967**	**15**	**4,409**

■ 被災児童・生徒の支援

被災地では、インフラ整備や住宅再建など、復興に向けた歩みが着実に進展している一方で、未だに様々な困難や制約を受けながら、精一杯、学業や部活動に励んでいる子どもたちがいます。

いわての学び希望基金は、こうした子どもたちの健やかな成長が図られるよう、環境の変化や被災地のニーズに対応し、被災児童生徒への支援を行っています。

■ 教科書購入費等給付事業

東日本大震災津波で被災した高校生に対し、入学一時金、教科用図書、制服代、修学旅行費を支援します。

■ 被災地生徒運動部活動支援事業

運動部活動において、東日本大震災津波で被災した中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会に参加するために必要な交通費等を支援します。

■ 被災地児童生徒文化活動支援事業

文化活動において、東日本大震災津波で被災した小・中学生、高校生がこれまでと変わらず県内外の大会やセミナーに参加するために必要な交通費等を支援します。

■ 大学等進学支援一時金給付事業

東日本大震災津波で被災した孤児・遺児以外の高校生等に対して一時金を給付し、進学等に伴う準備費用を支援します。

■ 被災地通学支援事業費補助

東日本大震災津波で被災した生徒等の通学を支援するため、通学定期券の購入を助成します。

■ 修学資金貸付等（看護師・医師・保育士）

東日本大震災津波で被災した学生等が、看護師、医師及び保育士になろうとする場合に、修学資金を貸付し、修学を支援します。

■ 防災教育・復興教育推進事業

沿岸地域の小中学校及び高校の一部を「いわての復興教育スクール」実践校に指定し、復興教育・防災教育の充実を図るほか、「復興教育副読本」を活用した教育活動を県内全ての小中学校で実施することにより、地域の復興・発展、地域防災を担う人材を育成します。

「防災アドバイザー」を招いての授業

■ 被災地域県立学校産業教育設備等整備費

被災地域の高等学校の実習用設備及び部活動設備を整備します。

ご寄附のご案内

いわての学び希望基金へのご協力をお願いします。

個人の方

■ご寄附の方法

令和元年12月1日から、ふるさと納税総合サイト「ふるさとチョイス」(https://www.furusato-tax.jp/)から寄附のお手続きができます。

また、引き続き寄附申込書によるお手続きもできますので、ご希望の方は必要事項を記入し、下記問い合わせ先に、FAX、電子メール又は郵便での送付のうえ、金融機関において下記口座への寄附金の振込をお願いします。

なお、口座振込以外にも、県の納付書、現金書留、クレジットカード、県税窓口でもご寄附できます。(クレジットカードは、ふるさとチョイスをご利用の方に限ります)

■お問い合わせ先

岩手県ふるさと振興部地域振興室
〒020-8570盛岡市内丸10-1
TEL.019-629-5184　FAX.019-629-5254
E-mail　AB0007@pref.iwate.jp

法人(団体)の方

■ご寄附の方法

寄附申込書に必要事項を記入し、下記問い合わせ先に、FAX、電子メール又は郵便での送付のうえ、金融機関において下記口座への寄附金の振込をお願いします。
(法人・団体の方は、下記口座へのお振込みのみとなります。)

■お問い合わせ先

岩手県復興局復興推進課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
TEL019-629-6922　FAX019-629-6944
E-mail AJ0001@pref.iwate.jp

○寄附申込書はコチラからダウンロードできます
https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/shien/link/1002711/1002712.html

寄附金の振込先について

振込先銀行名	支店名	預金種目	口座番号	受取人口座名義
岩手銀行 (コード0123)	県庁支店 (コード009)	普通預金	2017186	津波・震災孤児等支援寄附 (ツナミ．シンサイコジトウシエンキフ)

※　岩手銀行各店の窓口での振込については、手数料が免除されます。その他の金融機関及びATMでの振込については、金融機関により取扱いが異なりますので、お手数でも各金融機関にご確認のうえ手続きをお願いします。

いわての学び希望基金Q&A

Q.寄附金はいくらでもいいの？
A いくらでも構いません。

Q.長期支援を行いたいのですが？
A 県から毎年、寄附申込書を郵送いたしますのでご連絡をお願いします。

Q.現金での納付、クレジット納付は可能？
A 個人の場合、可能です。(法人は、県所定の銀行口座への振込のみとなります。)詳しくは岩手県公式ホームページをご覧ください。

Q.税制上の優遇措置は？
A 個人の場合、ふるさと納税制度の対象となり、寄附金のうち2,000円を超える部分について住民税と所得税の控除対象です。法人の場合、県に対する寄附金は、全額損金算入が可能です。

Q.ふるさと納税との関係は？
A 個人の方からの寄附金は、ふるさと納税制度により受け付けています。

Q.入金の振込手数料の負担は？
A 所定口座への岩手銀行各店の窓口での振込については、手数料無料となります。個人でクレジットカード収納を利用される方や、納付書を使って郵便局で寄附される方の手数料についても、無料となります。それ以外は、現金書留の郵送料も含め、寄附いただく方の負担となります。

Q.海外からの入金は可能？
A 県所定の口座への銀行振込により可能です。(振込手数料は、寄附いただく方の負担となります。)

Q.寄附した事実を公表したいが？
A 寄附いただいた個人・企業等の皆様のご判断で、公開できます。

Q.寄附金の管理方法は？
A いわての学び希望基金条例に基づき、確実な方法により運用しています。

詳しくは岩手県庁のホームページ　岩手県　学び希望基金　検索　で検索！
https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/shien/link/1002711

岩手県復興局　〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10-1　TEL.019-629-6922　FAX.019-629-6944

令和2年11月 発行
編集：川嶋印刷株式会社